

科目コード	授業科目名	単位数・学期	受講年次	授業区分	担当教員名
62041	博物館教育論	2単位 後期 集中	2～3	講義	齋 正弘 (非)

■テーマ 社会教育の視点から博物館教育を考える。

■授業概要

社会教育施設における、実際的な教育活動を組み立てる時に必要なものの考え方を、主に美術館での実践を通して学ぶ。

■学習目標

そのために、これまで様々な形で学んで来た美術と教育を巡る個人の体験を、本来持つ美術と博物館の概念に丁寧に擦り合わせ点検して、現在の問題点とこれからの見通しを考える。

■授業計画・方法

集中講義のため、要点だけを述べ、若干の実践を通してその具体的な方法を体験する。

- 一日目 「美術」の点検→近代の自覚
 - 図工と美術→造形を伴わない美術の有り様
 - 改めて美術史を振り返る→視点の有る所
 - 何を／何が見えるのか→見る事の自覚
- 二日目 「教育」の点検→個人の自覚
 - 教育の主体の有る所→学校教育と教育の違い
 - 生物としての人間の発生と発達→見ている世界（観）の自覚
 - 教えるでなく連れ添うという立場→具体的な活動の組み立て方
- 三日目 「博物（美術）館」とは何か→社会教育の中の博物（美術）
 - 「美術」を巡る、「教育的」な「配慮」を伴う、「活動」の「考え方」、を知る
 - 学校教育でない教育での、先生の立ち位置→ワークショップというものの考え方
 - ファシリテーションについて 実践を伴う

■履修上の留意点（授業以外の学習方法を含む）

- 美術だけでなく、できるだけ多くのワークショップと呼ばれる活動に参加しておくこと。
- 可能なら、岩波書店のWinnie-the-Poohを巡る幾冊かの本を読んでおくこと。
- 県立美術館の常設展を見ておくこと。
- 可能なら、様々な博物館施設の食堂売店施設を利用してみること。

■成績評価の方法・基準

- 方法 リポートの提出。（100点満点）
 - これまでの教育体験を、賛否を問わず、改めて自覚、客観視できたか。（30点）
 - これまでの美術体験を、賛否を問わず、自覚、客観視できたか。（30点）
 - 美術館の存在意義について意見を持てたか。（40点）

□基準

□到達目標を観点として、履修規程に定める「授業科目の成績評価基準」に則り評価する。

■教科書・参考文献（作品）等

- 教科書：特にありません
- 参考文献：大きな羊の見つけ方 「使える」美術の話（齋正弘 著 仙台文庫）